
潮の香り…海鳴り…
大自然を舞台に 陽やけした
少女と若者の愛が囁く！
山口百恵文芸シリーズ第2弾

潮騒（しおさい）

山口百恵
三浦友和
・
花沢徳衛
田中春男
青木義朗
初井言栄
丹下キヨ子
・
中村竹弥
津島恵子
有島一郎



《カラー作品》
原作■三島由紀夫（新潮文庫・刊）
監督■西河克己

製作■堀　威夫/笹井英男/脚本■須崎勝彌
製作者補■金沢　博/撮影■萩原憲治/照明■熊谷秀夫
録音■神保小四郎/美術■佐谷晃能/音楽■穂口雄右
東宝株式会社・株式会社ホリ・プロダクション提携作品
製作■株式会社ホリ企画制作
配給■東宝株式会社

東宝

20よりロードショウ
名駅前アスター映画劇場



《カラー作品》

潮騒（しおさい）

■かいせつ

川端康成の名作「伊豆の踊子」でスタートした山口百恵文芸シリーズ。その第二弾は、三島由紀夫文学の中で最もポピュラーな名作「潮騒」の映画化です。

潮の香り、海鳴り、きらめく太陽……美しい海の大自然を舞台に、陽やけした少女と若者の恋が囁やきます。神話的ともいえる純粋で感動的なこの愛の原型が、現代の若者たちの胸深くしみる爽やかな純愛文芸篇です。

「伊豆の踊子」で川端文学の完全映画化をみせた西河克己監督が、ふたたび山口百恵とコンビを組み、三島文学に挑みます。原作の島「神島」に長期ロケーションを敢行し、美しい南の島に、山口百恵の神秘的な魅力が満開することでしょう。

ホリ・プロダクション創立15周年記念作品。

東宝／ホリ・プロダクション提携作品。

■ものがたり

伊勢湾の湾口にある歌島は人口千四百、周囲一里にみたない小島である。人口の多くは漁師と海女である。

新治はまだ十八。これ以上日焼けしようのない肌と、この島の人達の特色をなす形のよい鼻と、ひびわれた唇を持ち、海の男のみが持つ澄んだ目をした無口な青年だった。彼は一昨年中学を出るとすぐ十吉の船に乗り込み、母と弟の生計を助けていた。

彼がその見知らぬ少女と出会ったのは夕暮の浜だった。額は汗ばみ、頬は燃え、寒い西風に髪をなびかせながら少女は暮れていく西の海の空を見つめていた。

翌日、新治は船で十吉から昨日の少女の話を聞いた。男やもめで金持で、しかも村一番のがみがみ親爺の宮田昭吉が、一人息子に死なれた為、他所に預けておいた末娘の初江を呼びもどし、島で婿取りをさせるというのだ。新治は自分の財力の乏しさを思って自信を失くし、昨日身近に眺めた少女も非常に遠いものに思われた。

それから四、五日して、強風の日、道に迷って泣いている初江に出会った。彼はこの幸福な出会いに目を疑った。観的哨跡から見える景色を初江に説明しているだけで十分幸福な新治だった。

給料を貰った夕方、新治は初江の入婿に安夫がなるという噂を聞いた。暗い心を抱いて家へ帰った彼は給料を無くした事に気づき、浜へ探しに戻った。自分は大きく胸をはずませ彼の所へ走ってきた。給料は少女が捨った事を告げに……。そして安夫との噂を問う新治に少女は砂の上に崩折れて笑った。新治の心にまた勇気が蘇り、二人はお互いの胸の熱さを知った。ひびわれた乾いた唇が初めて触れ合った。

二人が会えるのは、休漁の日、観的哨跡だった。なかなか来ない休漁の日がついにやって来た。ひどい嵐だったが、少女を約束を守るかどうかという事もつゆ疑わず、早めに観的哨跡についた新治は烈しい風と遠い潮騒の音の中で眠ってしまっていた。フッと目をさました彼の前に固い小さな乳房の少女の姿があった。お互い裸になる事で二人は羞恥心を消そうとした。二人はお互いの裸の鼓動を聞いた……。

■スタッフ

原作……三島由紀夫「新潮文庫刊」
製作……堀威夫
〃……笹井英男
製作者補……金沢博
脚本……須崎勝彌
監督……西河克己
撮影……萩原憲治
照明……熊谷秀夫
録音……神保小四郎
美術……佐谷晃能
音楽……穂口雄右
編集……鈴木晄
スチール……中尾孝
助監督……中川好久
製作担当者……斉藤正勝
製作宣伝……大門正雄

■キャスト

宮田初江……山口百恵
久保新治……三浦友和
〃　とみ……初井言栄
〃　広……亀田秀紀
宮田照吉……中村竹弥
灯台長……有島一郎
その奥さん……津島恵子
千代子……中川三穂子
大山十吉……花沢徳衛
日の出丸船長……青木義朗
川本安夫……中島久之
浜田竜二……川口厚
お春婆……丹下キヨ子
うめ……高山千草
行商人……田中春男